

2022 年度実施概要

学校名

千葉県市原市立姉崎東中学校

採択活動名

ICT を活用した千葉県近海における魚種交代の傾向の調査

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 海に親しむ活動	2	総合
2. 海を知る活動	2	総合
3. 海を守る	2	総合

取り組みの概要

<目的>

近年、日本近海における特定の魚の漁獲量が減少していることに伴い、千葉県においては魚種交替が注目を集めている。島国である日本にとって水産資源は重要な資源の1つである。変化する海洋環境に対する認識を深めるとともに、それに対する具体的な対応策を考え、行動に移すことのできる生徒の育成が求められていると言える。このような海洋と人類の関係性や互いの影響に対する理解は、海洋リテラシーと呼ばれている。中学校では教科「総合的な学習の時間」において探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的に地球環境や自然と人間との関わりについて考えることのできる授業の実施が求められている。以上を踏まえ本校では今年度、生徒の海洋リテラシーの獲得に向けた学習活動を2学年総合的な学習の時間の中で計画し、行うこととした。

<活動内容>

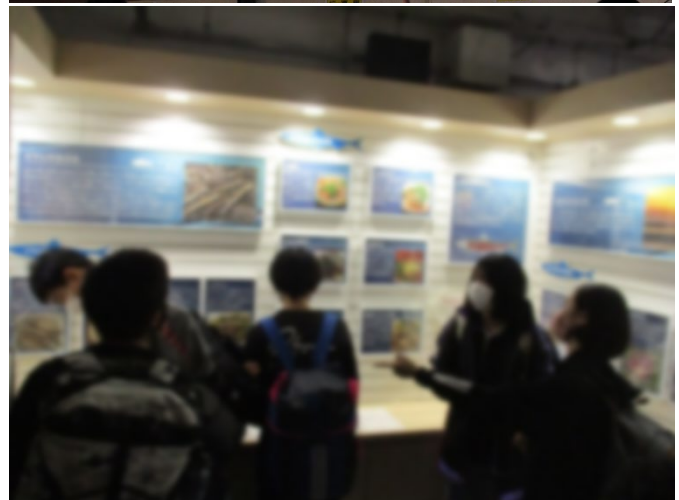
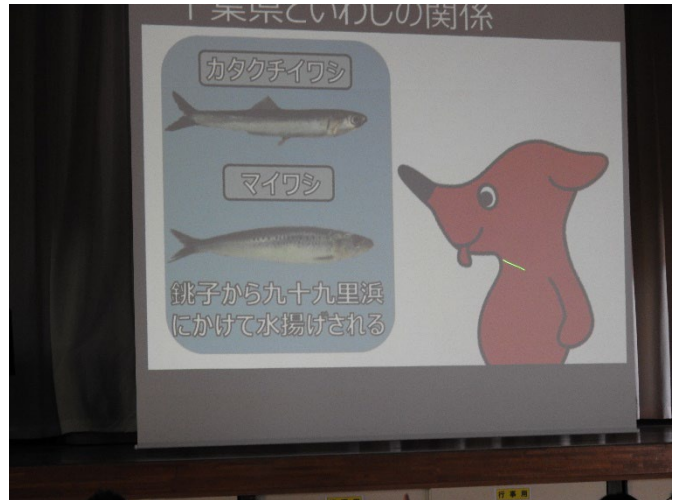
市原市から市内の全小学校・中学校に配布されたタブレットを用いた集散型の学習活動を行った。この活動は鈴木ら（2014）によって示された話し合いに基づく協働学習であり、① 自身の考えを出す（個人での活動） ②自他の考えを共有する（協働での活動） ③ 練り上げて協働での知識（アイデア）構造をつくり（協働での活動） ④ 自分なりに考え直す（個人での活動）という4つの段階より構成されている。本実践では、この活動に基づいて、

- ① 千葉県と関わりのある海洋生物である「イワシ」について、インターネットを中心とした調べ学習
 - ② 調べた学習に基づいた実地調査（イワシ資料館訪問、地引網漁体験による捕獲魚種の調査）
 - ③ ①②の結果を踏まえ、各自パワーポイントを使い、ポスター形式でまとめ、面談期間に併せて掲示する
 - ④ 他の生徒らのポスターを評価し、海洋環境と人間の関わりに関する最終的な結論を各自で導出する
 - ⑤ 学校ホームページを利用し、保護者・地域に対して、海洋学習の進捗状況を報告する
 - ⑥ 生徒・保護者を対象に学習の事前・事後でアンケートを実施する
- という①～⑥からなる学習活動が計画・展開された。

<結果・成果>

計画した海洋教育を実践した結果、以下のことが明らかとなった。

- ・事前・事後で海洋リテラシーを調査するアンケートを実施し、その結果に対して対応のある t 検定を行ったところ、「海での活動能力」、「海についての認識」、「海での活動経験」、「身近な海に関する興味・関心」の要因にそれぞれ有意な差が見られた。このことから、本実践が生徒の海洋リテラシーを高めるものであることが示唆された。
- ・中学校で海洋学習を行うことに対する認識調査及び海洋リテラシー、ICTを活用した情報発信に関するアンケートを実施し、その結果に対して対応のある t 検定を行ったところ、保護者が抱える中学校で海洋学習を行う意義、「海での活動能力」、「海についての認識」、「海での活動経験」、「身近な海に関する興味・関心」の要因、ICTを取り入れた学校の教育活動に対し、いずれも有意な差が見られた。このことから、本実践が保護者の海洋リテラシーを高めるものであることが示唆された。





今年度、学校事情により活動画像をHP等に掲載することが難しい状況にあるため、本来であれば画像データを別フォルダにまとめて提出するところ、上記のように個人の特定ができないような形での提出とさせていただきます。

事前にご担当者の方と確認をさせていただいておりますので、御了承いただければと思います。よろしくお願いいたします。